

# 漁況予報 いわし

## 第161号

2010年9～10月漁期  
(2010年9月13日発行)

### ＝予報＝

#### ＝概況＝

##### 【まいわし】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、7月が2トン、8月が6トン（速報値）と低調に推移し、両月とも前年（7月23トン、8月116トン）および平年（7月109トン、8月173トン）を大きく下回りました。

魚体は、12～13cmのヒラゴ～小羽マイワシ（2010年級・0歳魚）が主体でした。

佐島地区のまき網は中羽～大羽マイワシ（未測定）の漁獲が継続しました。これは周辺海域の漁獲物組成から、1歳魚（2009年級）および2歳魚（2008年級）が主体と推測されます。

太平洋のマイワシ2008年級群および2009年級群は、近年ではともに資源豊度が高い年級群と推定されています。これらの年級群は6月以降、北部太平洋における大中型まき網の好漁をもたらしており、本県沿岸における漁獲もひきつづき期待できるものと思われまます。

一方、今年生まれのマイワシ2010年級群の資源豊度は今のところ不明ですが、前号でもお知らせした春季のマシラス漁獲状況、および8月までの定置網漁況が低調であったことから、本県沿岸における今後の来遊水準も低いと考えられます。

##### 【かたくちいわし】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、7月が292トン、8月が90トン（速報値）と低調に推移し、両月とも不漁だった前年（7月225トン、8月25トン）をやや上回ったものの、平年（7月463トン、8月340トン）を大きく下回りました。ここ数年、8月に漁獲量が急減する傾向にありますが、今年も同様の経過をたどりました。

魚体は、8月には7cm以下の未成魚が主体でした。

佐島地区のまき網は、7月は餌イワシとしての漁獲が継続しましたが、8月には漁獲が散発的となり、極めて低調に推移しました。

近年の漁況経過から、今後は未成魚である0歳魚が主体になると考えられます。

##### 【しらす】

相模湾のシラス船びき網によるシラス漁獲量（標本船データより推定）は、7月は前年、平年をやや上回り（前年比1.3倍、平年比1.4倍）、8月は前年並みで平年をやや上回りました（前年比1.0倍、平年比1.3倍）。6月に引き続き、7月上旬までは湾全域で不漁が継続しましたが、7月中旬に一時的な水温低下が認められた後は漁が好転しました。

一方、当所が実施した卵稚仔プランクトン調査による7～8月のカタクチイワシ卵分布量は、平均365.5粒／曳網であり、前年（78.8粒／曳網）を大きく上回りましたが、平年（504.8粒／曳網）を下回る値でした。

##### 【まいわし】

今漁期は、今年生まれの小羽～中羽マイワシが主体で、あわせて1歳以上の大羽マイワシも漁獲されるでしょう。

今漁期の漁獲量は、春季のマシラス漁獲状況および7～8月のまき網の漁獲状況から、約440トンと予測されます。

\*縦軸：主要定置網＋まき網

##### 【かたくちいわし】

今漁期は、体長9cm未満の未成魚が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は7～8月の定置網漁獲量から、約65トンと予測されます。

\*縦軸：主要定置網＋まき網

##### 【しらす】

今漁期は、7月以降に相模湾周辺で発生したカタクチシラス（カタクチイワシの仔魚）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、7～8月の相模湾周辺のカタクチイワシ卵分布量から、約50トンと予測されます。

過去5年の9・10月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

